

学園祭

校長 稲葉 守朗

いよいよ学園祭（西校舎）前日となりました。別ページに各学年の見どころが紹介されていますのでご覧ください。年度当初より、様々な機会にお話をさせていただきましたが、今年度の学校運営は、安全面に細心の注意を払いながら、アクセルをしっかりと踏みスピードアップしています。学園祭の舞台発表の内容や形式もコロナ禍以前のものに近くなっています。26日（水）のリハーサル、そして、前日の練習を参観しましたが、どの学年も、一段と緊張感が高まっていました。

本学園は、前期の体育的行事には、「体育祭」ではなく、「運動会」という名称を使っていますが、後期の最大イベントである文化的行事には、「学園祭」という名称を使っています。私は、本学園に着任して5年目となりますが、これまでその意味をしっかりと考えたことはありませんでした。しかし、コロナ禍の生活が3年目となり、その中で「学園祭」を開催するにあたり、その「祭り」のもつ大切な意味について考えるようになりました。

日本には、多くの伝統的な祭りがあり、地域の人々によって大切に継承されています。昔から日本人は、「八百万（やおよろず）の神」と言って、すべてのものに神が宿ると信じてきました。自然と神様に感謝し、共に生きることを喜び合い、コミュニティを育てるために伝統的にやってきたのが日本の祭りなのだと思います。祭りのときは、普段触れることのないその地域の歴史や伝統について考えたりします。また、地域の人を含め、参加している人々が開放感の中で強い一体感をもつようになります。祭りのときに感じるエネルギーは、普段の生活では感じることもない独特なものがあります。この、祭りのもつ潜在的な力と同様のものが、厳しい条件の中でも、自分たちの学園祭を創造していく原動力になっているのだと思います。

西校舎の学園祭の準備は、9月から始まりましたが、夏休みから始まった学年もあります。本学園が大切にしてきた伝統の一つに、「主体者は、児童・生徒自身」というものがあります。これは、「目標を達成するために、一人一人が自己の役割に誇りと責任をもち、自分でしっかり考え、判断し、行動する。」ということです。各学年の発達段階によって、その度合いは多少違ってきますが、最高学年の9年生は、9年間の集大成として強い意識をもって取り組んでいます。5年生から8年生も、新たなものに挑戦し意欲的に練習に励んでいますので、当日の発表がとても楽しみです。

伝統を引き継ぐことは、容易ではありません。私は、「伝統は、新たなものに挑戦し創造していく中で引き継がれていくもの」と捉えています。舞台発表をする側も、そして、鑑賞する側も、「挑戦と創造」の主体者です。各学年のテーマやメッセージをしっかり汲み取りながら鑑賞し、皆様と楽しい一時を過ごせれば幸いです。

<学園祭（東校舎）>

11月11日（金）、12日（土）の舞台発表に向け、1年生から4年生の児童も練習に励んでいます。合唱・合奏、リズム表現、劇などを発表しますので楽しみにしてください。